

(一社) 福岡県ラグビーフットボール協会 総会

2022年5月14日

# 「インテグリティの追求」

～誰もがラグビーを楽しめる社会の構築に向けて～

弁護士 堀内 恭彦

# 2018.11.6 スポーツ仲裁シンポジウム

## 鈴木長官「現状のままでは…」相次ぐ不祥事に危機感

11/6(火) 18:10配信

日刊スポーツ



基調講演を行ったスポーツ庁の鈴木長官（撮影・佐藤礼征）

スポーツ庁の鈴木大地長官（51）が6日、都内で日本スポーツ仲裁機構（JSAA）主催の「第15回スポーツ仲裁シンポジウム」に出席し、日本スポーツ界におけるコンプライアンス体制の基本方針などについて語った。

【写真】 相次ぐ競技団体の不祥事に表情も曇りがちの鈴木大地長官

“Integrity of Sport” = スポーツの完全性・高潔性

スポーツにおける「インテグリティ」とは、

「スポーツが様々な脅威により欠けるところなく、価値ある高潔な状態」にあることを指す。

## Integrity of Sportを脅かす要因



## スポーツ長官 メッセージ

ドーピング、パワハラ・セクハラ、暴力行為などの深刻な問題が相次いで発生！

日本スポーツ界の悪しき体質・旧弊が要因！

➡勝利至上主義、行き過ぎた上意下達、集団主義、科学的合理性の軽視

ラグビーW杯、オリンピック・パラリンピックが迫っている今こそ、**スポーツ界全体を挙げて、スポーツ・インテグリティ（誠実性・健全性・高潔性）を高めていかなければならない**

## ラグビー憲章

「ラグビー憲章」では、ラグビーの価値を高める5つの要素が述べられている。  
インテグリティは、すべての土台になる基本の姿勢・精神である。

**品位**

**INTEGRITY**

**情熱**

**PASSION**

**結束**

**SOLIDARITY**

**規律**

**DISCIPLINE**

**尊重**

**RESPECT**

# インテグリティ（品位～誠実、健全、高潔）

## 1 行動指針 （例） J R F U 戦略計画

**Be Open** ...人々とつながり、社会に役立とう

**Play Globally** ...世界視点で考え、実行しよう

**Keep Integrity** ...常に真摯であり、誠実でいよう

# インテグリティ（品位～誠実、健全、高潔）

## 2 競技の場面

スポーツの運営とプレーに関わる人は、全て、  
プレーヤーに対して配慮する義務がある

➡適切な予防手段を整備することで、スポーツ特有の危険を関係者が管理することができる

# インテグリティ（品位～誠実、健全、高潔）

## 3 概念の広がり

インテグリティの概念は、指導者・プレーヤー及び全ての関係者に対し、競技の場面のみならず、日常生活や社会生活の場面においても、広く、責任ある行動と自覚を求めるものである

➡「コンプライアンス＝法令遵守」よりも、さらに広い概念と言える

# 全てはプレイヤーのために

## 1 PLAYERS FIRST

- ➡ **スポーツの主役であるプレイヤーを最優先**に考えて指導や試合が展開されるべき  
主役を置きざりにして、一部の関係者の利害によって、スポーツをする環境が阻害されることは許されない

## 2 現場でのトラブルの増加

怪我やケンカ、体罰、試合に出られないのは指導者の責任？  
集団でのルールが守られない、理不尽な難題を押しつけるモンスターペアレンツ？

- ➡ **主役はプレイヤー（選手、生徒、子ども）**  
指導者でも保護者でもない！  
この事実をしっかりと認識すること！

# 全てはプレイヤーのために

## 3 コミュニケーションの重要性

➡スポーツ訴訟の増加

一番の解決方法は、指導者と選手・保護者との  
日頃からのコミュニケーション

## 4 理念の重要性

➡クラブにおいて、**確固たる「理念」**を持つことが大切

➡クラブの理念とは何か？を常に問い、その理念を十分に理解してもらうことで、保護者は子どもを託し、さらには指導者・クラブのファンを増やすきっかけとなる

# インテグリティを阻害する15の行動

- 1 違法薬物（大麻等違法薬物）
- 2 ドーピング、パラ・ドーピング
- 3 暴力行為（飲酒を伴う不行跡等）
- 4 ハラスメント（パワハラ、セクハラ、アルハラ、モラハラ等）
- 5 違法賭博（違法カジノ等）
- 6 反社会的勢力との関わり
- 7 差別（人種差別、性差別等）
- 8 試合結果の不正操作
- 9 SNSの不用意/不適切な利用
- 10 不適切な経理処理
- 11 私的な利益追求（横領等）
- 12 交通違反（飲酒運転等）
- 13 性犯罪
- 14 その他の各種法令違反
- 15 ラグビーの価値を下げるすべての行動

## ラグビーと薬物

日付	逮捕容疑	逮捕者	判決	協会処分
2019/ 6/20	麻薬取締法 違反(所持)	社会人 28歳 男性	懲役1年2カ月 執行猶予3年	無期出場停止
2019/ 6/27	麻薬取締法 違反(所持)	社会人 36歳 男性	懲役2年 執行猶予3年	無期出場停止
2020/ 1/20	大麻取締法 違反	大学生 21歳 男性	懲役6ヶ月 執行猶予3年	4年間出場停止
2020/ 3/5	麻薬取締法 違反(使用)	社会人 29歳 男性	懲役1年6ヶ月 執行猶予3年	無期出場停止

# ラグビーと体罰・パワハラ

年度	カテゴリー	内容
2018	ラグビー スクール	コーチから「ラグビーを辞めろ」「ラグビーをする資格がない」などで約10分間、一方的に怒鳴り続けられた。
2020	中学	顧問より1か月のボール拾いを命じられたり『お前ボコボコにするぞ』と発言があった。
2019	高校	夏合宿で飲酒をしたコーチが部員に対して暴行（全治3週間）
2020	大学	コーチが特定の選手に対して飲酒の強要や暴行を行っていた。

# ジュニア世代の指導者は自覚を

叩く、殴る、蹴る、押す、倒す

➡暴行罪、傷害罪などの犯罪に該当

「馬鹿」「アホ」「死ね」「やめてしまえ」「強化費の無駄だ」など  
人格を傷つけ、自尊心を損なわせる言動

➡パワハラに該当

指導者は、「パワハラ・暴力が人権の侵害」であることを認識すべき

## 【関連法令】

- 損害賠償 民法709条(不法行為)
- 刑事罰 暴行罪、傷害罪、脅迫罪、強要罪、名誉毀損罪、侮辱罪

# ジュニア世代の指導者は自覚を

## I 身体的な攻撃

- 殴る、蹴る、平手打ち（ビンタ）、バットや竹刀で叩く、物を投げつける
- 直接身体に触れなくても、長時間立たせる、脱衣・断髪などを強要する

## II 精神的な攻撃

- プレーヤーの人格や尊厳を否定したり、プレーヤーを差別するような発言

## III 人間関係から切り離し

- プレーヤーを孤立させる、無視する、相手を精神的に追い詰める

## IV 過大な要求

- 過剰な負荷を設定したトレーニングをさせる、ケガをしているにもかかわらずプレーを強要する

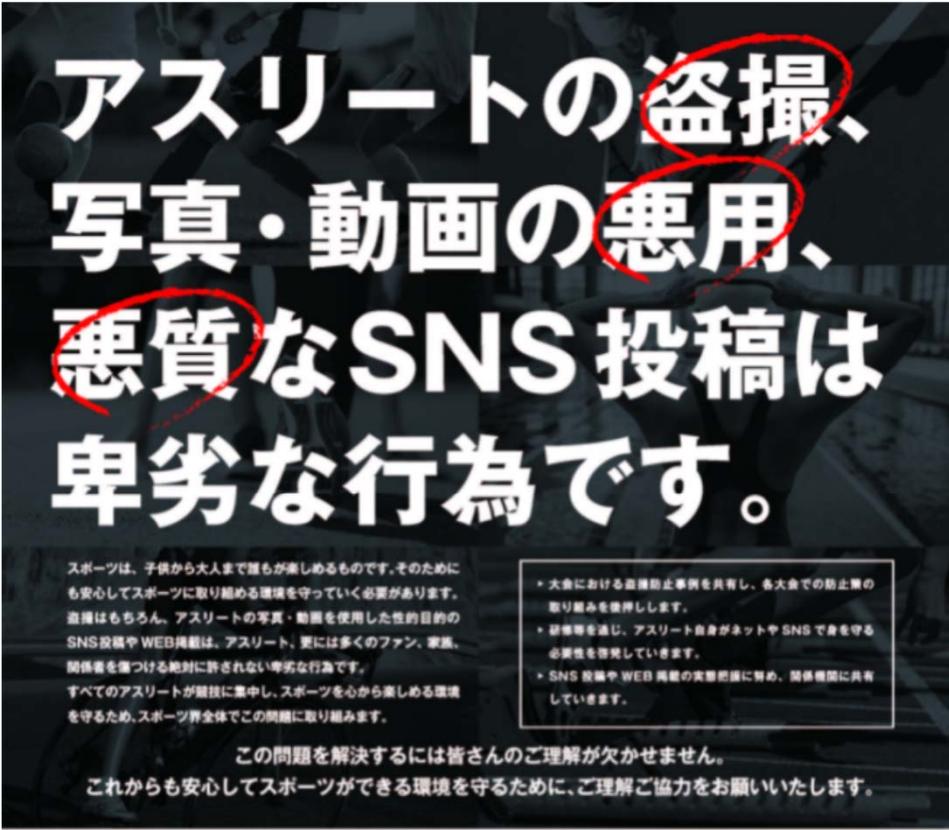
## V 過小な要求

- 正当な理由なくプレーさせない、合理性なく能力や経験とはかけ離れた程度の低い練習を命じる

## VI 個の侵害

- 個人情報の流用、プライベートへの過度な立ち入り行為

# 性犯罪・セクハラ等への取組み



**アスリートの盗撮、  
写真・動画の悪用、  
悪質なSNS投稿は  
卑劣な行為です。**

スポーツは、子供から大人まで誰もが楽しめるものです。そのためにも安心してスポーツに取り組める環境を守っていく必要があります。盗撮はもちろん、アスリートの写真・動画を使用した性的目的のSNS投稿やWEB掲載は、アスリート、更には多くのファン、家族、関係者をつける絶対に許されない卑劣な行為です。すべてのアスリートが競技に集中し、スポーツを心から楽しめる環境を守るため、スポーツ界全体でこの問題に取り組みます。

- ・大会における盗撮防止事例を共有し、各大会での防止策の取組みを推奨します。
- ・研修等を通じ、アスリート自身がネットやSNSで身を守る必要性を啓発していきます。
- ・SNS投稿やWEB掲載の実態把握に努め、関係機関に共有していきます。

この問題を解決するには皆さんのご理解が欠かせません。  
これからも安心してスポーツができる環境を守るために、ご理解ご協力をお願いいたします。

**安全な環境を、すべてのスポーツ愛好者のために。  
SAVE ATHLETES, SAVE SPORT.**

# 組織作り ～ ガバナンスコード

- 1 組織運営等に関する**基本計画**を策定し公表する
- 2 適切な組織運営を確保するための**役員等の体制**を整備する
- 3 組織運営等に必要な**規程**を整備する
- 4 **コンプライアンス委員会**を設置する
- 5 **コンプライアンス強化のための教育**を実施する
- 6 **法務、会計等の体制**を構築する
- 7 適切な**情報開示**を行う
- 8 **利益相反**を適切に管理する
- 9 **通報制度**を構築する
- 10 **懲罰制度**を構築する
- 11 選手、指導者等との間の**紛争**の迅速かつ適正な解決に取り組む
- 12 **危機管理及び不祥事対応**体制を構築する
- 13 **地方組織**等に対するガバナンスの確保、コンプライアンスの強化等に係る指導、助言及び支援を行う

# なぜ、ガバナンスが必要なのか？

「大きな組織」ではなく、「**持続可能な組織**」を作る

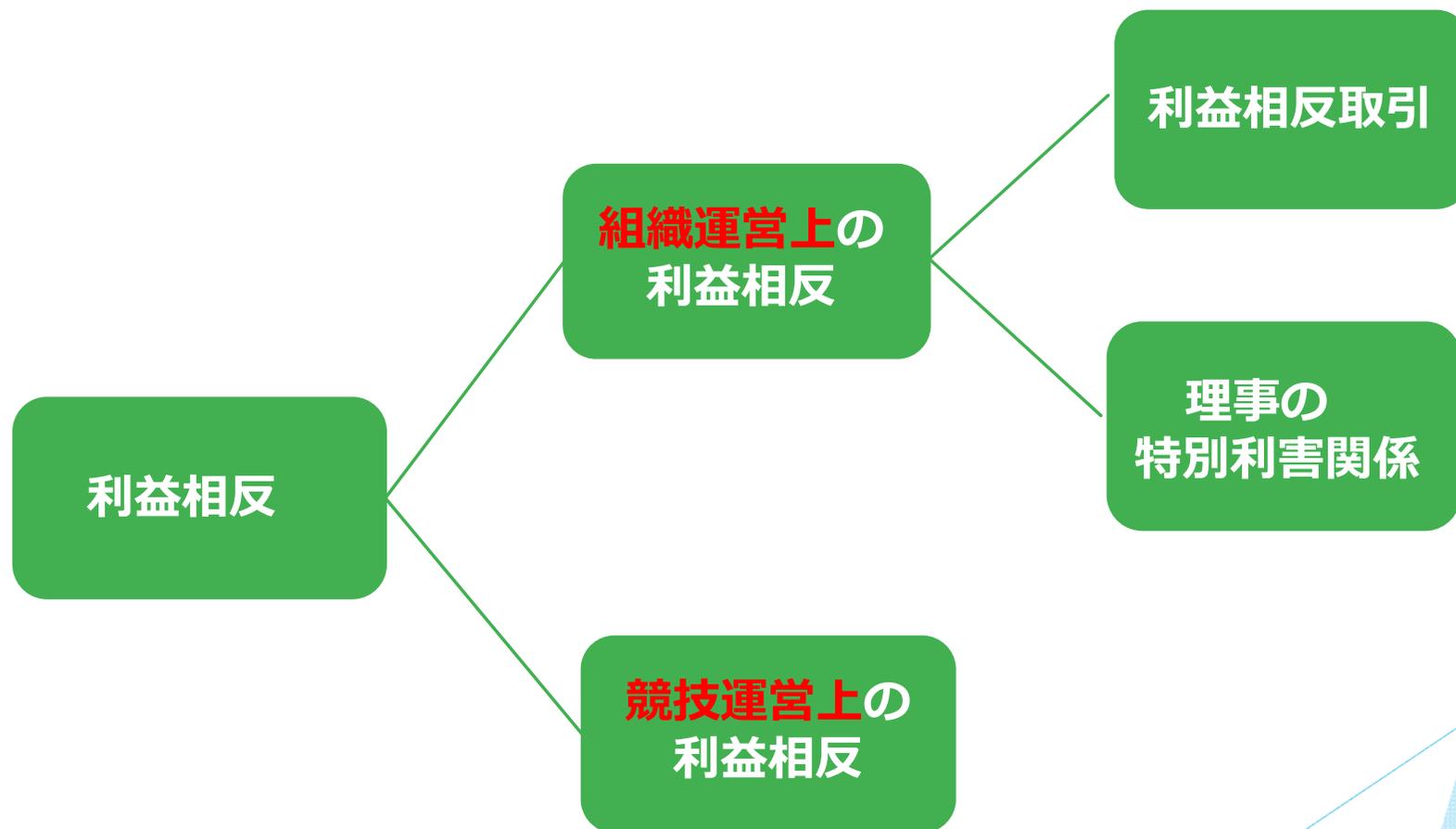
➡従来モデルを単に維持することは不可能

➡**会計面からの検証**が可能となる

➡「組織作り」を通じて、**関係者の巻き込み**が可能となる

➡事務局維持費用負担は、費用（人件費、賃料）負担だけでなく、**能力、ノウハウを共有**できてこそ可能となる

# 「利益相反」に注意！



# 「組織運営上の利益相反」とは？

想定されるものは、基本的に**経済的利益**

➡法人が取引するにあたり、法人の機関となる者が本人または第三者を利するような取引を禁止する

(例) 法人が備品を購入するにあたり、理事が社長を務める会社と取引を行う

# 「利益相反」の法的規制

## 法人法（第84条）

理事は、次に掲げる場合には、社員総会において、当該取引につき重要な事実を開示し、**その承認**を受けなければならない。

- 1 理事が自己又は第三者のために法人の事業の部類に属する取引をしようとするとき（**競業**）
- 2 理事が自己又は第三者のために法人と取引をしようとするとき（**直接取引**）
- 3 法人が理事の債務を保証することその他理事以外の者との間において法人と当該理事との利益が相反する取引をしようとするとき（**間接取引**）

## 「競技運営上の利益相反」とは？

- ➡ 競技団体の役員や委員等が競技運営上の決定を行うにあたり、競技団体の利益と、当該個人又は当該個人の所属する競技団体以外の組織の利益とが相反すること
- ➡ **必ずしも「経済的な利益」に限られない**
- ➡ 競技上のメリットに当たるものすべてが該当する
- ➡ **法的規制がない！**

## どういう場面で問題となるか？

- 1 一方チームと関係性の深い人がレフリーを務める
- 2 大会のフォーマットや日程を、当該大会に参加するチームの一部の選手や指導者が決定する
- 3 代表チームの選考を、特定のチームを指導する指導者が決定する

## 客観的な基準と主観的な基準

1 客観的な基準 = 判断者の裁量に基づくことのない基準

(例) ○○の試合を担当するレフリーはYo - Yoテストで○○以上でなければならない

2 主観的な基準 = 判断者の裁量を認める基準

(例) ○○の試合を担当するレフリーはレフリー委員会の○名以上が推薦する者でなければならない

# インテグリティ追求のための取組みを

インテグリティ追求

コンプライアンス遵守

ラグビー憲章

- 品位 INTEGRITY
- 情熱 PASSION
- 結束 SOLIDARITY
- 規律 DISCIPLINE
- 尊重 RESPECT

## 必要なことは？

問題を問題と**感じる力**

問題に対応する**行動力**

➡ラグビーに携わる者として  
協会に携わる者として

➡自覚と研鑽

# ご清聴ありがとうございました

【プロフィール】 弁護士 堀内恭彦

1965年 福岡市生まれ 修猷館高校、九州大学法学部卒

「弁護士法人堀内恭彦法律事務所」代表弁護士



企業法務を中心に、暴力団・反社会的勢力対策、クレーマー対策、コンプライアンス対策を専門とする。日本弁護士連合会民事介入暴力対策委員会副委員長、九州弁護士会連合会民事介入暴力対策委員会委員長などを歴任。元九州大学ラグビー部監督。

現在、九州ラグビーフットボール協会及び福岡県ラグビーフットボール協会理事（スポーツ・インテグリティ保護強化担当）として、暴力・体罰、パワハラ・セクハラ、ガバナンス欠如などの様々な脅威からスポーツの価値を守る取組を行っている。

【弁護士法人堀内恭彦法律事務所】 Yasuhiko Horiuchi LAW OFFICE

〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-13-10 赤坂有楽ビル8階

Tel: 092-751-7355 Fax: 092-751-7356

URL: <https://horiuchi.law/>

E-mail: [yasu15@aurora.ocn.ne.jp](mailto:yasu15@aurora.ocn.ne.jp)